

シチズンシップ共育企画

2009年度事業計画案

(2009年1月～12月)

「じぶん」になる、「しみん」になる。

アクティブな市民になれるために。民主的な対話を実感／実現するために。

市民的リテラシーを獲得した民主主義の担い手が育つ社会の実現のために。

シチズンシップ共育企画は、「市民としての意識と行動力」が向上するための学びの場をつくる NPO です。特に、市民が社会参画していく技能の内、「コミュニケーション力」「協議力（合意形成力）」「マネジメント力」「社会問題発見力」の4つの市民力と、社会参画を支援する力（教育ファシリテーション力）を中心テーマに据えて、講座・ワークショップを実施しています。

1. 2009年度事業計画案のポイント

- (1)高校生 NPO インターンシップ事業は STEP 事業に改編
- (2)ユース ACT プログラムは多段階化し、サポーターズコミュニティを充実化
- (3)セルフカルチャープログラム事業を開始。ワークショップ・プログラム開発の新機軸の形成へ
- (4)骨太教員プログラム（仮）を開始し、教員の「採用前教育」を問題提起
- (5)ERC、具体的な対外事業へ展開

2. 2009年度事業計画案の内容

■市民教育事業部（SV 役員：小林）

- (1)STEP 事業（主任：神野） 新規（ここスタからの改編）

○名称：STEP（Social, Try, Encounter & Empowerment Project）

○内容：市民がアクティブ・シチズンシップを形成していくために必要な5つのステップごとにプログラム集の開発を行い、学校側のニーズや状況に応じて、開発プログラムをパッケージ化して企画提供する。あるステップ以降のアドヴァンスドプログラムについては、当会が校外でインターハイスクール形式によって直接提供する。

○目標：2009年度中に私立高等学校1校以上への企画提供

フェーズ1

2009年度～2011年度：試行実践の展開とプログラムの継続的開発（学校のニーズや状況を分類し、複数パターンの開発）

フェーズ2

2012年度～2014年度：テキストの発行等による、プログラムの全国的普及（主に私立高校）、当会は阪神地区での実践以外は、導入のコンサルティングに比重を動かす。

フェーズ3

2015年度～2018年度：公立学校への普及の模索

- 時期：2009年1月～2010年2月（複数年度事業）
- 場所：主に企画提案先の高等学校（兵庫県内）、校外実習先
- 対象：兵庫県内の私立高校に通う生徒（主に1年生～2年生）

(2) コミュニティーリーダー育成事業（主任：松村） 継続

- 名称：「ユース ACT (Active Citizenship Training) プログラム」
- 内容：高校生が地域課題を解決するまちづくりプロジェクトを企画・実行する実践型ボランティア学習プログラム「ユース ACT プログラム」を開発し提供する。

〈08年度からの変更〉

- ・夏休み限定の導入企画を実施し、その参加者から継続プログラムの参加者を募り、今年度実施企画を提供する。夏休み限定企画については、成果物が明確であることが望まれる（成果発表としてのラジオ CM を活用するなどの方策を検討する）。
- ・継続実施プログラムについては、「地域型（児童館連携）」と「テーマ型（NPO 連携：環境・国際・福祉等）」の2つに分類する。
- ・高校生をサポートする大学生スタッフの体制の洗練化を計るため、事務局とサポーターと分化していた状態を統合する。

- 目標：2009年度、導入企画参加者 30 名、継続企画参加者 15 名以上

フェーズ1

2008年度～2010年度：当会が事務局を担い、京都地域でプログラムを実施・改善。（特活）ユースビジョンによる NPO/NGO インターンシップ事業や、（特活）edge のビジネスプランコンペ事業との連続性の向上の模索。あくとも応援団の確立。

フェーズ2

2011年度～2013年度：京都地域での実行委員会の事務局組織独立。当会は兵庫地域での実行委員会を立ち上げ、事務局を担って、開発されたプログラムの普及開始。プログラム実施マニュアルの整備。

フェーズ3

2014年度～2016年度：兵庫地域の事務局は当会に保持したまま、大阪地域へのプログラム普及を行い、関西アクティブ・ユースネット（仮称）の設立。大阪地域の事務局組織は2016年度に独立させる。

- 時期：2009年8月～2010年3月（複数年度事業）

- 場所：京都市内の宿泊研修施設、青少年活動センター、児童館等
- 対象：京都地域の高校生（主に1年～2年生）
- 備考：引き続き、京都地域の教育機関をネットワーク化し、実行委員会形式で実施する。
当会は事務局を担当する。

(3)セルフカルチャープログラム事業（主任：鈴木、副主任：川中） 新規

○内容：昨年度まで共育ワークショップ事業部で取り組まれていた事業を市民教育事業部内の企画と位置づけ、2事業部を統合する。統合にあたり、共育ワークショップ事業部を「セルフカルチャープログラム事業」とする。本事業は、当会 C.I.で示されている概念である、『「じぶん」になる』を実現する教育に取り組むものである。当会のセルフカルチャー・プログラムは以下に示す4つの基本柱と8つの教育プログラムから成る。

(1)自分に気づく

- 1-1.自分の気持ちに気づく「感情教育」
- 1-2.自分の生き方に気づく「デス・エデュケーション」

(2)自分を表す

- 2-1.自分の感情と気持ちを表す「アサーショントレーニング」
- 2-2.自分の考えを伝える「メディア表現教育」

(3)自分を鍛える

- 3-1.自分の世界観を鍛える「哲学教育」
- 3-2.自分の学び続ける力を鍛える「ラーニングスキル教育」

(4)他者とともに生きる自分を育む

- 4-1.自他のつながりに気づき、つながりをつくる
「コミュニケーショントレーニング」
- 4-2.他者への寛容性を育む「倫理教育」

上記方針に従って、ニーズと実現可能性の両面から順次プログラムを開発していく。主なターゲットは、既存の「生と死の共育ワークショップ」で想定している、20代～30代のNPOで活動しているボランティアや有給スタッフに準じるが、プログラムによっては、市民教育事業部が対象としている高校生とすることもありえると考えている。なお、このワークショップ開発にあたっては、アウトリーチ的な意味合いの強い新しいスタイルの実験として取り組むものも含まれる。

○目標：2009年度中で1領域以上の新規プログラムの開発と実施

フェーズ1

2009年度～2013年度：プログラムの開発・試行・改善を行い、全8領域でのワークショップが実施される状態にする。

フェーズ2

2014年度～2015年度：過去に行ったプログラムを整理し、大学での課外教育プログラムとして実施可能な形態に組み替えたモデルプログラム・テキスト作成。

フェーズ3

2016年度：事業再編

○備考：本事業の企画・実施にあたっては関係NPOとの協働を模索する。

3-2.生と死の共育ワークショップ（主任：川中、副主任：未定） **継続**

○対応領域：1-2（デス・エデュケーション）

○内容：精神的な成長機会の提供として、死生観を手がかりに、自らの生き方と向き合うワークショップを年1回程度、ゲストを迎えて実施する。今年度テーマは「〈古い〉を表現する」「〈看取り〉の先にあるもの」等とする。

○時期：2009年11月14日（土）～15日（日）

○場所：大蓮寺・應典院（大阪市天王寺区）

○対象：成人・大学生 15名定員

(4)講師派遣プログラム（主任：川中） **継続**

依頼のあった大学等で非常勤講師に着任し、市民教育に関する科目を担当する。2009年度、予定されている学校・科目は以下の通りである。

〈春学期〉甲南女子大学「NGO/NPO論」、大阪樟蔭女子大学「教育社会学」

岐阜県立森林文化アカデミー「NPO概論-コミュニティデザインの技法-」

美作大学「ボランティア論（福祉系）」

〈秋学期〉甲南女子大学「ボランティア入門」、大阪樟蔭女子大学「教育社会学」

*甲南女子大学科目のサポート：鈴木陵、美作大学のサポート：三浦一郎・鈴木陵

■ファシリテーター養成事業部（SV役員：東末）

(1)教育ファシリテーター講座（主任：鈴木、副主任：川中） **継続**

○内容：教育現場で実際に役立つ教育ファシリテーションの技法を習得できる学びの場として、昨年の「基礎編」と「中級編」に加えて「上級編」の3コース制で実施する。今年度より基礎編については、過去受講生にも参画を呼びかける。また、受講生には「学びのデザイン研究会」への参加を促し、経験に深みをもたらす機会を提供する。

○時期：2009年7月26日（日）、8月1日（土）～4日（火）

○場所：大阪市内の宿泊研修施設（基礎：大阪市内生涯学習施設、中級：服部緑地ユースホステル、上級：KOKO PLAZA）

○対象：教員、教職志望者、社会教育施設職員、NPOスタッフ 25名程度を定員

(2)学びのデザイン研究会（主任：川中、副主任：鈴木） 継続

- 内容：関西地域のファシリテーターが分野を超えて「実践知」を交換し合いながら、ネットワーキングしていく機会を提供する。教育ファシリテーター講座のフォローアッププログラムの位置づけもある。
- 時期：2009年3月～12月の奇数月第4水曜日19時30分～21時30分
- 場所：西宮市市民交流センター
- 対象：ファシリテーターとして活動しているもの 各回15名定員
- 備考：各回運営委員等が担当幹事を決め、幹事がテーマ決定・ゲスト確保を行う
3月25日（担当：大本晋也）、5月27日（担当：三浦一郎）
7月22日（担当：東末真紀）、9月30日（担当：小林健司）
11月25日（担当：川中大輔）、1月27日（担当：鈴木陵）

(3)骨太教員養成プログラム（仮称）（主任：松村） 新規

- 内容：「もう一つの教職課程」というコンセプトのもと、既存の教職課程や教職志望学生支援の取り組みにおいて充たされていないニーズに応えるための連続講座プログラムを開発し提供する。具体的には、「教育観の鍛錬」を軸にすえて、青少年を支援している学校外の多様な機関の教育観に触れたり、新旧の教育方法／技術の比較を行ったりして、個々人の教育観やミッション／ビジョンを明確化していく。また教員になった後、支援と協働のネットワークが各人にできあがることも目指す。
- 時期：2009年10月～2010年2月（複数年度事業）
- 目標：2009年度中にプログラムを開発し、10名の参加者を得る

フェーズ1

2009年度-2011年度：プログラムの開発・試行・改善を行い、効果あるプログラムをデザインする。

フェーズ2

2012年度-2014年度：プログラムの社会発信（書籍発行）と学校教育研修関係者のエンゲージメント。大学もしくはメディアと連携した「採用前教育」に関するシンポジウムの開催。

フェーズ3

2015年度-2017年度：私立学校連盟や兵庫県教育委員会等が行う「採用前教育プログラム」として展開（受託事業化）。

- 場所：兵庫県内を中心に京阪神地区
- 対象：教員採用試験合格者および小中高の非常勤教員、教員志望者
- 備考：有識者によるプログラム開発委員会を立ち上げる。

■協働推進事業部（SV 役員：大本）

(1)ERC（教育リソースセンター）（主任：三浦） 継続

○内容：NPO と中学・高等学校との教育協働の推進のために、どのようなコーディネート支援が必要かを検討し、その支援を具現化する。現在、県内高等学校における協働実態調査を行っており、今年度はその調査結果の公表および結果を踏まえた検討を行うこととなる。加えて、「NPO の教育力」を明らかとすべく、関西地区の NPO と学校の教育協働事例を収集した冊子の発行も検討する（校種別・科目別で検索でき、NPO との協働したことの相乗効果が分かりやすいもの）。

○目標：

- ・教育協働をテーマにしたシンポジウムを 1 回開催し、教育関係者の認知を形成する。
- ・高校のボランティア担当者コミュニティを設ける
- ・教育リソースブックの作成に着手する
- ・NPO 側の教育体制構築支援として、兵庫県内の NPO を対象に「地域の中高生をどう受け入れているか？」ワークショップの企画検討に取り組む

○備考：昨年度同様に ERC 企画委員会を設置し、外部有識者と共に検討していく。

(2)神戸市市民参画推進局「協働と参画のプラットフォーム受託事業（主任：川中） 継続

2006 年度から継続して、NPO と神戸市、NPO と地域組織の協働を促進するための環境整備やコーディネートに取り組む。

■NPO 支援事業部（SV 役員：川中）

(1)講師派遣プログラム（主任：川中） 継続

NPO・市民組織、教育機関を対象に開催されるマネジメント講座や内部研修、各種ワークショップ、会議へ講師・ファシリテーターを派遣する。

○目標：年間 50 本程度の派遣を目標とする。（07 年度 58 本、08 年度 80 本）

これまでの研修資料をもとにテキストを作成・発行する（販売目標：200 部）

○備考：新規トリアルテーマへのチャレンジと発信（理事会の「質」を高めるなど）については、他の中間支援組織との協働企画での検討の中で遡上にのせていく。

(2)ユースナレッジマーケット（主任：川中） 継続

○内容：学生ボランティア団体の全スタッフが参加する合同マネジメント研修を開催し、学生による市民公益活動の強化の機会を提供する。

○時期：2009 年 1 月 17 日「番外編：自分たちがつくる社会予想図」

2009 年 2 月 7 日～8 日「#8：2009 年度の活動方針を立てよう！」

2009年5月23日～24日「#9：ミーティング・ファシリテーション（仮称）」

2009年6月20日～21日「#10：チーム・ビルディング（仮称）」

2009年8月9日「#11：広報（仮称）」

2009年11月28日～29日「#12：幹部研修～幹部の役割（仮称）」

〈参考〉

2010年2月6日～7日「#13：新しい年度の組織と活動をつくる」

○場所：関西圏の研修施設

○対象：関西圏の学生ボランティア団体（6団体程度）

（CLUB GEORDIE、Reuniv、関西学院ヒューマンサービスセンター、
シチズンシップ共育企画、コミュニティスペース PECO、JAE ほか）

○備考：参加団体役員による企画会議を設け、また、事務局業務を参加団体で分担する。
各団体の OB/OG をアシスタントとして利活用する。

関西圏の若手 NPO スタッフにゲストサポーターをプロボノで依頼する。

(3)外部委員の就任（主任：川中） 継続

依頼のあった NPO・市民組織や行政等の外部委員に就任し、テーマに沿った課題について解決に向けた支援を行う。現在就任している委員は以下の通りである。

（特活）まちなか研究所わくわく理事、（特活）BrainHumanity フェロー、（特活）edge アソシエイト、
（財）京都市ユースサービス協会企画委員、（財）大学コンソーシアム京都リエゾン・アドバイザー、
尼崎市きょう Do 検証会議委員、葛飾区「市民活動団体との協働事業提案制度」審査会委員、
兵庫県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会委員

(4)その他の活動

○ひょうご NPO ユースの幹事として次世代育成と NPO スタッフの研修環境整備に取り組む。

○情報誌『NPO マネジメント』における「誌上マネジメント相談コーナー」への寄稿

6. 組織開発にかんする計画

■経営体制

2009 年度の経営体制については、昨年度同様に運営委員会での意思決定を原則とし、毎月 1 回の定例会を開催する。また、日常の業務執行ベースでの一次的な意思決定については代表に委任する。

ビジョンの策定や組織課題の整理と解決策の検討、事業の評価および計画については、年 2 回程度、合宿会議を開催し、集中的な議論を行ない、ガバナンスを強化する。また、外部に監事を依頼し、年 1 回程度、第三者的な視点からの問い直しの機会を得ることとする。

法令遵守を旨とし、税務会計事項については久保栄史税理士事務所を通じて、労務事項について

は社会保険労務士永井弘行事務所を通じて、適正に処理することとする。その他の法務についても法令の定め範囲における運営に留意する。

なお、運営委員の増員やアドバイザー・コミッティーの整備については、2010 年度からの実施運用も含めて、運営委員会において検討する。

■執行体制

事務局長の川中を全体統括としつつ、事業コーディネーターが配属されている事業については同コーディネーターに事務局長の権限を一部委譲し、事業推進にかかるディレクションを行うこととする。各事業には、スーパーバイザーとして担当運営委員を任命し、事業コーディネーターをサポートする体制を整える。

また、昨年、急増した学生ボランティアについては、その能力開発やケアについて、試行的に展開してきた内部勉強会や、事業コーディネーターを対象とした年 1 回以上の運営委員による個別面談の取り組みを定期的に計画立てて行うこととする。特に企画提案能力の向上を目標に、企画提案研修の実施を検討する。また、ユースナレッジマーケットへの参加を推奨し、他団体との経験交流を通じた実践力の向上を促す。

今後、事業の拡充に伴い、STEP およびユース ACT プログラムを中心に学生ボランティアの確保が課題となる。2008 年 4 月～6 月にかけて、ボランティア募集およびオリエンテーションキャンプ等を検討し、総勢 10 名程度の新規参加とその定着を目指したい。

こうした組織の拡大に伴い、総務事務事項の膨らみや事務局長の業務拡散に対応するため、昨年度より試験的に開始した非常勤職員の雇用を今年度より本格的運用に切り替え、1 名の非常勤職員について試用期間を経た後に新規専従職員として任用する可能性を検討する。

なお、広報機能の強化のため、前年度からの課題であるパンフレットの制作に取り組む。パンフレット制作にあたっては、全メンバーに参加を呼びかける広報ワークショップをベースに取り組むこととする。

以上